

「[改訂 7 版] IT パスポート最速合格術～1000 点満点を獲得した勉強法の秘密」特別付録

最新シラバス V6.5 ～ V6.0 対応

試験に出る！  
変更点&最新出題傾向

# 超・徹底解説 BOOK

本テキスト「超・徹底解説 BOOK」は、IT パスポート試験の  
2022 年 4 月の V6.0 から最新の V6.5 までのシラバス改訂の  
「何が変わったのか」「受験生は何を押さえればいいのか」を一冊にまとめました。  
2026 年 4 月以降に受験される方は、ぜひ事前に目を通しておきましょう！



✓ CHECK! /



<https://gihyo.jp/book/2025/978-4-297-14645-0>

# はじめに

私（西俊明）が執筆したテキスト『[改訂 7 版] IT パスポート最速合格術～1000 点満点を獲得した勉強法の秘密』（技術評論社）は、2026 年（令和 8 年）末までの IT パスポート試験範囲に完全対応することを保証しています。2026 年末までに新たなシラバスが発表された場合も、すべての新用語を網羅した PDF 用語集を読者特典として提供予定です。

この変更点の「超・徹底解説 BOOK」は、その保証の一環として制作した特別付録です。2022 年 4 月の V6.0 から最新の V6.5 まで、シラバス改訂のたびに「何が変わったのか」「受験生は何を押さなければいいのか」を一冊にまとめました。

IT パスポートのシラバスは、IT 技術やビジネス環境の変化に合わせて定期的に改訂が行われています。2022 年 4 月の V6.0 以降も、V6.1、V6.2、V6.3、V6.4、V6.5 と計 5 回の改訂が実施されました。「改訂が多くて追いきれない」と感じている受験生も多いかもしれません。しかし、改訂ごとの“重さ”はまったく違います。V6.0 や V6.2、V6.3 のように大量の用語が追加された大型改訂もあれば、V6.1 や V6.4、V6.5 のように変更がごく小規模なものもあります。

本書では、最新の V6.5 から順にさかのぼりながら、各バージョンの変更点を整理していきます。限られた学習時間を有効に使うために、ぜひ活用してください。

なお、著者（西俊明）はトシゾー名義で運営中の YouTube チャンネル「デジつよ | トシゾー講義中」において、シラバス変更点の解説動画や試験対策動画を随時公開しています。本書の各章に対応する解説動画へのリンクや QR コードも掲載していますので、「テキストだけでは分かりにくい」「動画で確認したい」という方は、ぜひ併せてご活用ください。

# シラバス改訂の全体像

まずは V6.0 から V6.5 までの改訂を一覧で整理しておきます。時間の無い方は、ここでポイントだけでも掴んでください。

## ● V6.0 (2022年4月～)

➔ 擬似言語・情報デザイン・データ利活用の追加【大規模】

## ● V6.1 (2023年11月～)

➔ システム監査分野の表記整理のみ【対応不要】

## ● V6.2 (2024年4月～)

➔ 生成 AI 関連の用語追加【大規模】

## ● V6.3 (2024年10月～)

➔ DX 推進・人的資本経営・環境など約 100 語の追加【大規模】

## ● V6.4 (2025年4月～)

➔ プロバイダ責任制限法 → 情報流通プラットフォーム対処法【名称変更のみ】

## ● V6.5 (2026年1月～)

➔ 下請法 → 中小受託取引適正化法（取適法）【名称変更のみ】

学習の優先順位としては、まず生成 AI (V6.2) と DX 推進・人的資本経営など (V6.3) の用語をしっかりとっておさえること。次に擬似言語 (V6.0) の練習。そのうえで、V6.4 と V6.5 の法律名の変更を頭の片隅に入れておけば、万全の対策になります。

次ページより、最新の V6.5 から順にさかのぼりながら、各バージョンの変更点を整理します。

# V6の各シラバスの変更まとめ

## シラバス V6.5 で何が変わった？

【シラバス公開時期】 2026 年 1 月 8 日

【シラバス変更の規模】 変更は実質 1 箇所のみ

V6.5 の変更点は、「下請法」の名称が「中小受託取引適正化法（取適法）」に変わったことです。法改正に伴う名称変更であり、これが唯一の変更です。

旧：下請法

新：中小受託取引適正化法（取適法）

この法律は、「強い立場（発注側）」が「弱い立場（受注側）」に不当な扱いをすることを禁止するものです。中小（下請）事業者の保護と、下請取引の公正化を目的としています。法律の名前は変わりましたが、中身のポイントは従来の下請法と同じです。

特に重要な「代表的な 5 つの禁止事項」は、試験の鉄板テーマなので必ずおさえましょう。

1. **支払遅延** → 受領から 60 日以内に支払わないこと。
2. **代金減額** → あとから勝手に金額を減らすこと。
3. **受領拒否** → 納品物を受け取らないこと。
4. **買ったとき** → 相場より著しく安い金額で発注すること。
5. **不当な給付内容の変更** → 追加費用を負担せずやり直しをさせること。

たとえば、発注した後に「やっぱりこれもやって！ お金は出さないけど！」といった、発注側の勝手な都合による不利益は全部 NG です。

また、発注したら「すぐに書面（メール等）で条件を明示する義務」があることも忘れずに覚えておきましょう。

### ▶ V6.5 の対策まとめ

「下請法＝中小受託取引適正化法（取適法）」と名前を上書きするだけで OK です。

### 動画（トシゾーの YouTube）で学習したい方は

【令和 8 年最新】 IT パスポート試験 1 番わかるオンライン講座

第 15 回 労働・取引関連法規

<https://youtu.be/VlwL99sTl8g>

令和8年 ITパスポート  
1番わかるオンライン講座

2026/1改訂 シラバス V6.5 最新  
#15 労働・取引関連法規 対応

\ CHECK! /



### シラバス V6.4 で何が変わった？

【公開時期】 2025 年 4 月

【シラバス変更の規模】 変更は実質 1 箇所のみ

V6.4 の変更点は、「プロバイダ責任制限法」が「情報流通プラットフォーム

**△対処法**」に変わったことです。こちらも法改正に伴う名称変更であり、変更箇所はこの1点だけです。

### 旧：プロバイダ責任制限法

### 新：情報流通プラットフォーム対処法

正式名称は「特定電気通信による情報の流通によって発生する権利侵害等への対処に関する法律」ですが、試験対策としては「情報流通プラットフォーム対処法」で覚えれば大丈夫です。

もともとこの法律は、ネットに誹謗中傷を書き込まれた時に、プロバイダに対して「その投稿を削除してください」「書いた人の情報を開示してください」と請求できるものです。そして、プロバイダ側が削除などの対応をしても、一定の条件を満たせば損害賠償の責任を負わなくていい、つまりプロバイダの責任を"制限"するところがポイントでした。

法律の中身は、基本的に今までのプロバイダ責任制限法と同じです。ただ、近年のSNSでの誹謗中傷問題を受けて、大規模なプラットフォーム事業者に次の2つが新たに義務付けられました。

- ・「**削除対応の迅速化**」→誹謗中傷の投稿を、今まで以上に早く消すこと
- ・「**運用の透明化**」→削除の窓口やルールを、はっきり公開すること

ひとことでいえば、プラットフォーム事業者はもっと積極的に"対処"しなさい、という方向に強化されたわけです。

#### ▶ V6.4の対策まとめ

「プロバイダ責任制限法＝情報流通プラットフォーム対処法」と名前を上書きするだけでOKです。

## 動画（トシゾーのYouTube）で学習したい方は

【2025年4月・新シラバス公開】IP/FE/SG/AP プロバイダ責任制限法から情報流通プラットフォーム対処法へ

<https://youtu.be/NJLxs2WtbdA>



\ CHECK! /



## シラバス V6.3 で何が変わった？

【適用時期】 2024年10月

【シラバス変更規模】 大規模（約 100 語の用語追加）

V6.3 は、近年の技術動向・環境変化を踏まえた改訂の一環として行われました。全体方針は「用語例の追加」「用語の見直し・整理」で、試験範囲そのものが大きく変わったわけではありませんが、追加された用語の数は約 100 語と非常に多く、しっかりとした対策が必要です。

内訳としては、ストラテジ分野で約 50 語、マネジメント分野で約 10 語、テクノロジー分野で約 40 語となっています。

以下、各分野の主な追加用語を紹介します。

### ● ストラテジ分野の主な追加用語

- ・ MVV (ミッション・ビジョン・バリュー)
- ・ 人的資本経営
- ・ パーパス経営
- ・ DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)
- ・ リスキリング
- ・ グリーントランスフォーメーション (GX)
- ・ カーボンニュートラル
- ・ SDGs (持続可能な開発目標)
- ・ インボイス制度
- ・ 景品表示法 (ステルスマーケティング規制)
- ・ 廃棄物処理法、リサイクル法、GX 推進法
- ・ デジュレスタンダード、フォーラム標準
- ・ エコシステム
- ・ CX (カスタマーエクスペリエンス)
- ・ カスタマージャーニーマップ
- ・ OMO (Online Merges with Offline)
- ・ NFT (Non-Fungible Token)
- ・ 中央銀行発行デジタル通貨 (CBDC)
- ・ デジタルガバメント、ガバメントクラウド、ベースレジストリ
- ・ 自動運転レベル
- ・ スマートシティ
- ・ PoV (価値実証)

#### ● マネジメント分野の主な追加用語

- ・ スクラム (アジャイル開発のフレームワーク)
- ・ スプリント
- ・ SLO (サービスレベル目標)
- ・ SLI (サービスレベル指標)

#### ● テクノロジ分野の主な追加用語

- ・ メタバース
- ・ VR ゴーグル

- ・ AIOps
- ・ GPGPU
- ・ Wi-Fi 6、Wi-Fi 6E
- ・ EMV 3-D セキュア
- ・ トラストアンカー
- ・ FRR（本人拒否率）、FAR（他人受入率）
- ・ USB Type-A / Type-B / Type-C
- ・ GPL（GNU General Public License）、コピーレフト
- ・ パブリッククラウド、プライベートクラウド、ハイブリッドクラウド、マルチクラウド
- ・ マネージドサービス

V6.3 では、ビジネス・社会のトレンドを反映した用語が幅広く追加されています。特に「人的資本経営」「リスクリング」「GX」「インボイス制度」「MVV」などは、ニュースでも頻繁に登場するキーワードなので、日頃から関心を持っておくと学習がスムーズです。

#### ▶ V6.3 の対策まとめ

追加用語数が多いので、まずは主要な用語の意味をひとつお押しさえることが大切です。

なお、『改訂 7 版 IT パスポート最速合格術』に付属の PDF 特典「新シラバス（V6.3 & V6.2）追加全用語解説集」では、V6.3 の追加用語をほぼすべて解説しています。同書をお持ちの方は、ぜひそちらも併せてご活用ください。

## 動画（トシゾーの YouTube）で学習したい方は

【超まとめ】 シラバス V6.3 新規追加約 100 語  
ほぼ全解説動画 + オリジナル練習問題解答解説  
<https://youtu.be/hNboCov8fFI>



\ CHECK! /



## シラバス V6.2 で何が変わった？

【適用時期】 2024 年 4 月

【シラバスの変更規模】 大規模（生成 AI 関連を中心に約 20 用語＋関連語追加）

V6.2 は、「生成 AI」の社会的インパクトを踏まえた改訂です。生成 AI の仕組み・活用例・留意事項に関する項目や用語例が追加されたほか、近年の動向を踏まえた用語例の整理も行われました。

なお、『改訂 7 版 IT パスポート最速合格術』に付属の PDF「新シラバス (V6.3 & V6.2) 追加全用語解説集」では、V6.2 で追加された用語（＋関連語）を含め、ほぼ全用語を解説しています。本付録の用語説明も、原則としてこの PDF の定義に準拠しています。改訂 7 版をお持ちの方は、詳細確認は付属 PDF をおすすめします。

## ● SNS・情報の偏りに関する用語 (V6.2)

- ・エコーチェンバー → SNS で似た意見の人ばかりとつながり、偏った意見が増幅・先鋭化していく現象
- ・フィルターバブル → 検索や SNS のアルゴリズムにより、見たい情報ばかりが表示され、偏った情報に包まれた状態になる現象
- ・デジタルタトゥー → ネットに書き込まれた情報が拡散後に完全に削除できず、将来まで残り続けてしまうこと

## ● 生成 AI の基本用語

- ・生成 AI (Generative AI) → テキストや画像、音声、動画など様々なコンテンツを作ってくれる AI
- ・マルチモーダル AI → テキスト、画像、音声など複数のデータ種類を組み合わせて処理できるタイプの AI
- ・ランダム性 → 生成 AI が生成するコンテンツに、一定確率でランダムなノイズを入れること (毎回少しずつ特徴が異なる出力になる)
- ・説明可能な AI (XAI) → AI の出力について、判断の根拠や経緯を適切に説明できる AI
- ・ヒューマンインザループ → AI 運用プロセスに人間が介在し、より正確な判断や改善につなげる考え方
- ・ハルシネーション → 生成 AI が事実に基づかない虚偽の情報を作ってしまう現象
- ・ディープフェイク → AI で人物の動画・音声等に加工を行い、本物そっくりの偽コンテンツを作る技術
- ・AI サービスのオプトアウトポリシー → ユーザーが拒否の意思表示をした場合、そのユーザーのデータを AI 活用 (学習等) に使わない方針

## ● モデル学習に関する用語 (関連語)

- ・基盤モデル → 大量のデータを事前学習し、その後の学習で微調整して幅広い用途に適応できるモデル
- ・過学習 → 既に与えたデータに適合し過ぎ、未知のデータに対して精度が落ちること
- ・ファインチューニング → 基盤モデルを特定分野に特化させるため、新

たに学習させて調整すること

- **転移学習** → 基盤モデルを利用し、新たな分野の学習をさせて学習を効率化すること（ファインチューニングも一部）

### ● ディープラーニング周辺の用語（関連語）

- **ディープラーニング（深層学習）** → ニューラルネットワークを多層にした機械学習の手法
- **敵対的サンプル** → AI に誤認識を起こさせるため、データに微小なノイズを混入させたサンプル

### 動画（トシゾーの YouTube）で学習したい方は

【超まとめ】 シラバス V6.2 生成 AI

ほぼ全用語解説 + オリジナル予想問題回答解説

<https://youtu.be/X1Lp8XYxQpl>



\ CHECK! /



シラバス V6.1 は考慮する必要なし

【適用時期】 2023 年 11 月

【シラバスの変更規模】 実質変更なし

V6.1 は、経済産業省の「システム監査基準」および「システム管理基準」

の改訂に合わせて、シラバス内の表記や用語を整理したものです。主にシステム監査分野を中心とした文言の調整が行われました。

IPA の公式発表でも、「試験で問う知識・技能の範囲そのものに変更はない」とされています。つまり、**V6.1 は受験対策として特別な対応は不要です。**

### ▶ V6.1 の対策まとめ

V6.0 の内容をそのまま学習していれば問題ありません。

## シラバス V6.0 の内容は？

**【適用時期】 2022 年 4 月**

**【シラバスの変更規模】 大規模（出題形式の変更を含む大改訂）**

V6.0 は、高校の共通必修科目「情報Ⅰ」への対応を背景にした大型改訂です。「プログラミング的思考力」「情報デザイン」「データ利活用」の3つの柱を中心に、出題範囲と出題形式の両面で大きな変更が行われました。

### ● 変更点 1：擬似言語を用いた出題の追加

V6.0 の最大の目玉が、**擬似言語（疑似プログラム）を使った問題の追加**です。実際のプログラミング言語ではなく、試験用に作られた擬似言語を読み解き、処理の結果を答える形式の問題が出題されるようになりました。

プログラミング未経験の受験生にとっては馴染みの薄い形式ですが、問われるのは「プログラミング的思考力」であり、特定のプログラミング言語の知識は不要です。IPA が公開しているサンプル問題を使って、解き方のコツをつかんでおくことが大切です。

擬似言語に関連する用語として、以下のものが追加されています。

- ・ 式、条件式、演算子、代入
- ・ 入出力、手続、関数、引数、戻り値
- ・ データ型（整数型、実数型、論理型、文字型）

### ● 変更点 2：情報デザインの強化

ユーザにわかりやすく情報を伝えるための「情報デザイン」に関する出題が強化されました。

主な追加用語：

- ・ デザインの 4 原則（近接、整列、反復、対比）
- ・ シグニファイア
- ・ 構造化シナリオ法（価値のシナリオ、行動のシナリオ、操作のシナリオ）
- ・ インフォグラフィックス
- ・ ピクトグラム

### ● 変更点 3：データ利活用の強化

ビジネスにおけるデータ利活用の考え方や技術に関する出題が強化されました。

主な追加用語：

- ・ GIS（地理情報システム）
- ・ クロスセクションデータ
- ・ タイムシリーズデータ
- ・ パネルデータ

### ● 変更点 4：プログラミング言語の詳細化

従来から存在した「プログラミング言語」の項目が細分化され、各言語の

特徴を問う出題が増えました。また、「データ記述言語」の項目が新設され、マークアップ言語（HTML など）との関連も問われるようになっていきます。

### ▶ V6.0 の対策まとめ

擬似言語の問題は、慣れが重要です。サンプル問題や過去問を繰り返し解いて、読み方のパターンを身につけましょう。情報デザインやデータ利活用の用語は、意味を押さえておけば得点源にできます。

## 動画（トシゾーの YouTube）で学習したい方は

【超まとめ】令和6年度 ITパスポート1番わかるオンライン講座  
【YouTube で完全無料】全76回の動画を1本に集約

<https://youtu.be/CrFzDSBNKIE>

こちらの動画はITパスポートのすべての範囲を解説した約12時間の動画です（計算問題 / 擬似言語をのぞく）。この動画に加え、V6.2～V6.5の個別解説動画をご視聴することで、ITパスポートの全範囲を履修できます。計算問題と擬似言語については、以下のとおり超まとめ動画を用意しておりますので、そちらをご覧ください。計算問題も擬似言語も、どちらも1本ですべてマスターできる内容になっています。

令和6年 ITパスポート  
1番わかるオンライン講座

**超まとめ**

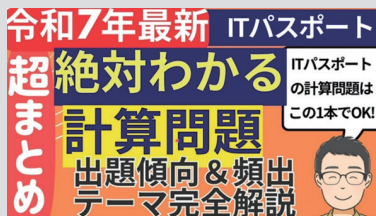
全76回を1本に凝縮、これ1本  
でゼロから合格レベルへ！

＼ CHECK! ／



超まとめ【ITパスポートの計算問題】令和7年最新  
絶対わかる計算問題 出題傾向徹底分析 & 頻出テーマ徹底講義  
～過去問解説まで、これ1本で完璧！

<https://youtu.be/-0LeciZo9Cs>

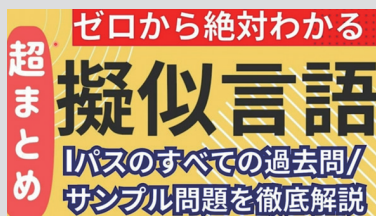


\ CHECK! /



【超まとめ】ゼロから絶対わかる擬似言語【ITパスポートの  
すべての擬似言語の過去問 / サンプル問題を徹底解説】

<https://youtu.be/7cFNVDsz04>



\ CHECK! /



## その他、令和8年に押さえておきたい注目用語

シラバスの改訂とは別に、令和8年（2026年）の試験で出題が予想される注目用語をまとめます。

ITパスポート試験はCBT方式（PC受験）への移行以降、出題がランダム化されています。しかし、**重要な用語ほど出題頻度が高い**という原則は変わりません。特に、新シラバスの追加用語や、上位試験（応用情報技術者な

ど)で先行出題された用語は、ITパスポートにも降りてくる傾向が顕著です。また、時事的に注目度の高い用語も出題されやすくなっています。

以下の10語は、こうした出題傾向を踏まえて厳選した「令和8年の注目用語」です。

### ● デジタルフォレンジックス

インシデント調査のため、電子データを収集・保全・解析して証拠性を確保する技術・手続のこと。令和7年のITパスポート公開問題(問74)でズバリ出題されたほか、同年の応用情報技術者試験(午後問1)でも記述設問で問われました。フジテレビ問題など社会的事件でも頻繁に報道されるなど、時事的な注目度も非常に高い用語です。

### ● カルーセル

複数の画像やカードをスライドして順番に表示するUI部品(回転木馬型の切り替え)のこと。情報デザインやUI設計の基礎として重要な用語です。応用情報技術者試験(令和6年秋)で出題されており、UI設計の基礎用語として押さえておきたい用語です。

### ● 尺度(名義・順序・間隔・比例)

データの測定水準の分類で、名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度の4種類があり、扱える演算が異なります。名義尺度は大小関係なし(例:名前、性別)、順序尺度は大小あり(例:ランキング)、間隔尺度は差に意味あり(例:温度、偏差値)、比例尺度はゼロが特別な意味を持つ(例:価格、体重)。令和7年のITパスポート公開問題(問63)で出題されたほか、同年の大学入学共通テスト「情報I」でも出題されています。

### ● JIT(Just In Time)生産方式

必要なものを、必要なときに、必要な量だけ生産する方式。トヨタ生産方式・かんばん方式とも呼ばれ、在庫の最小化がねらいです。サプライチェーンマネジメント(SCM)の論点として、令和5年・令和6年の公開問題で出題済みの頻出用語です。

## ● ディープラーニング

多層のニューラルネットワークを用いて、データから特徴量を自動的に学習し、高精度な認識・予測を実現する手法。 AI 関連用語の土台であり、令和 7 年公開問題（問 86）でも出題されています。生成 AI や CNN、RNN など他の AI 用語を理解するうえでも不可欠な基礎用語です。

## ● ハッカソン

限られた時間（数時間～数日間）でチームが集中的に開発を行い、アイデアを形にするイベント。 PoC（概念実証）やアジャイル開発の文化と親和性が高い用語です。令和 7 年の IT パスポート公開問題（問 9）でトレンド（注目）用語として出題されました。

## ● IP ランドスケープ

知的財産（特許・商標など）の情報を分析して、市場・技術・競合の動向を可視化し、経営判断に活かす手法。 シラバス外用語ですが、令和 7 年の IT パスポート公開問題（問 14）で出題されました。技術戦略マネジメントの分野で、今後も出題が予想されます。

## ● R

統計解析やデータ分析・可視化に強いオープンソースのプログラミング言語。 データサイエンス分野の代表的な言語であり、Python と並んでデータ分析の実務で広く使われています。

## ● 3-2-1 ルール

バックアップの基本原則で、「データを 3 つ保持」「2 種類の異なる媒体に保管」「1 つはオフサイト（別の場所）に置く」というもの。 ランサムウェア対策として再注目されている用語です。関連用語として、イミュータブルバックアップ（あらゆる変更・削除・暗号化を不可にするバックアップ）や WORM（Write Once Read Many）もセットで押さえておきましょう。

## ● 偽装請負

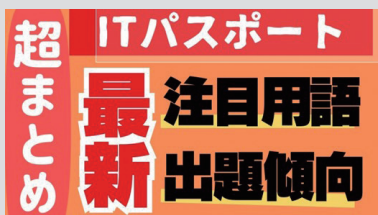
形式上は請負契約でありながら、実態としては派遣のように発注側が作業

者に直接指揮命令を行っている違法状態のこと。令和7年のITパスポート公開問題（問1）でトレンド（注目）用語として出題されました。V6.5で改称された中小受託取引適正化法（取適法）や働き方関連の法律と合わせて出やすい用語です。

### 動画（トシゾーのYouTube）で学習したい方は

【超まとめ】ITパスポート令和7年最新の注目用語&出題傾向を1本の動画にまとめました！【徹底解説】

<https://x.gd/wd76c>



\ CHECK! /



# 終わりに ——ITパスポートに合格したら

本付録を活用して無事 IT パスポートに合格されたら、次のステップとして「**情報セキュリティマネジメント試験 (SG 試験)**」への挑戦をおすすめします。

**情報セキュリティマネジメント試験は、IT パスポートと同じ「情報処理技術者試験」のひとつで、セキュリティ分野に特化した国家試験です。**ITパスポートの学習で身につけた知識、特にセキュリティ用語やマネジメントの考え方がそのまま土台になるため、合格直後の今こそ最も効率よく学習を進められるタイミングです。

「でも、ITパスポートより難しいんでしょう？」と不安に思う方もいるかもしれませんが。確かに出題範囲はセキュリティ寄りに深くなりますが、試験形式は IT パスポートと同様に CBT 方式の選択問題であり、記述式はありません。ITパスポートに合格できた方であれば、正しいテキストで効率よく学習すれば、十分に手が届く試験です。

そこでご紹介したいのが、本書と同じ「最速合格術」シリーズの姉妹書『**情報セキュリティマネジメント最速合格術**』(<https://gihyo.jp/book/2026/978-4-297-15450-9>)です。ITパスポート最速合格術と同じ「わかりやすさ最優先」のコンセプトで書かれており、初学者がつまずきやすいポイントを丁寧に噛み砕いて解説しています。ITパスポート最速合格術で学習した方であれば、同じ著者による文体・構成でスムーズに学習を始められるはずです。



情報セキュリティの知識は、IT 業界に限らず、あらゆるビジネスパーソンにとって必須のスキルになっています。資格を取得すること自体がキャリアのアピールになるのはもちろん、学習を通じて身につくセキュリティの考え方は、日々の業務や生活で必ず役に立ちます。

IT パスポート合格という成功体験を活かして、ぜひ次の一步を踏み出してください。『**情報セキュリティマネジメント最速合格術**』が、皆さんの合格を全力でサポートします。

●免責

本付録に記載された内容は、情報の提供のみを目的としています。したがって、本書を用いた運用は、必ずお客様自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用の結果について、技術評論社および著者はいかなる責任を負いません。

本付録記載の情報は、2026年3月現在のものを掲載していますので、ご利用時には、変更されている場合もあります。

以上の注意事項をご承諾いただいた上で、本書をご利用願います。これらの注意事項をお読みいただく前に、お問い合わせいただいても、技術評論社および著者は対処しかねます。あらかじめ、ご承知おきください。

●商標、登録商標について

本文中に記載されている製品の名称は、一般に関係各社の商標または登録商標です。なお、本文中では™、®などのマークを省略しています。